

長万部町「神遊の桜」 オオヤマザクラの樹勢回復措置

1 はじめに

長万部町字知来の「ごんべえの森」の中にある「神遊の桜」の桜の樹勢回復措置を行いました。この桜は、NPO 法人長万部町緑と樹を愛する会の前理事長の丹野利春氏の所有のカラマツの林に囲まれた1本桜です。かつては酪農のための牧草地の中にあった時代も経ているようです。根際が細く、そしてその上が太く、気根が何度も出て幹化し、ねじれて重なり合っている幹は、黒松内低地帯の厳しい風雪と戦いながら生きてきた証です。この地の開拓の厳しさを今に伝える桜だと思えます。



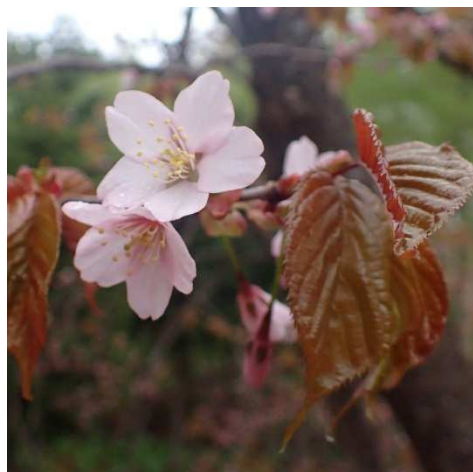
神遊の桜 2018.05.04



神遊の桜の根元 2018.05.04

この桜は地元ではカスミザクラであると言われており、2020年7月に出版された「日本の古桜 一本桜探訪 それでも生き残って欲しい桜たち」（葛城三千子著 右文書院）でも、「神遊の桜」という名のカスミザクラと紹介されています。

当社樹木医の木戸口和裕は、2012年（平成24年）、2018年（平成30年）に長万部町の高野亮三氏の案内でこの桜を見せていただきましたが、紅色の花弁、赤みの強い若葉、萼筒や小花柄に毛がないことなどから、木戸口は、カスミザクラではなくオオヤマザクラであると思っています。



神遊の桜 2018.05.04



神遊の桜 2018.05.04

2 2021年5月の樹勢回復措置

(1) 2020年(令和2年)11月9日

高野亮三氏の案内で、樹木医の金田正弘氏などとともに、この桜を見ました。幹周(地上1.2m)を計測してみると、4.94cmでした。

幹や枝への内部腐朽の進行が著しく、枝折れやクマゲラの食害跡もあり、2018年に見た桜とは大きく違っていました。金田氏と樹勢回復措置が必要であることを打ち合わせしました。



神遊の桜 2020.11.09

(2) 2021年(令和3年)5月.20日

高野亮三氏と木戸口和裕が事前に丹野利春氏から了解をいただき、樹勢回復措置を行いました。

高野氏が枯枝の切除及び切除面への殺菌剤塗布、木戸口が穴あけ器でエアレーションし、固形肥料の投入、堆肥やフルボ酸の植物活性剤フジミン®(以下「フジミン」といいます。)の500倍希釈液の散布を行いました。

この桜の周辺のカラマツ林は防風効果があるものの日あたりを悪くしているため、間伐の検討が必要であると思われました。



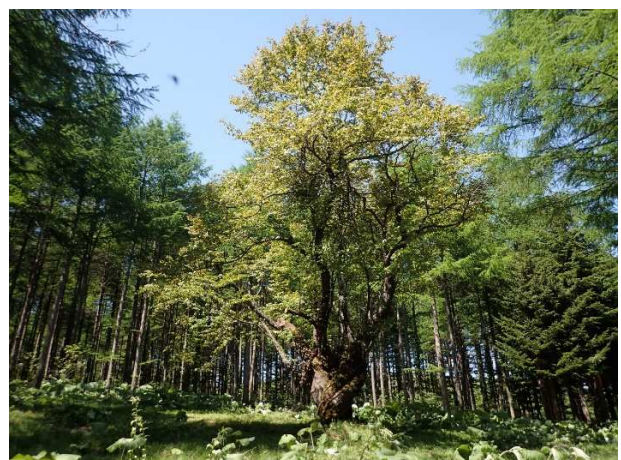
神遊の桜 樹勢回復資材 2021.05.20



神遊の桜 枯損木処理 2021.05.20



神遊の桜 エアレーション 2021.05.20
(高野亮三氏撮影)



神遊の桜 5月樹勢回復措置完了後 2021.05.20

3 2021年11月の樹勢回復措置

(1) 2021年10月19日

高野亮三氏、樹木医金田正弘氏、当社の木戸口和裕の3人で、この日に樹勢回復措置を行うこととしていましたが、雨が強くなってきたので、現地への資材運搬だけを行いました。資材は、金田樹木医と当社で分担して用意したものです。

10月はこの日以外都合がつかないため、11月に樹勢回復措置を延期しました。

資材運搬の山道は、「ごんべえの森」の看板から上り坂となつて、途中、木戸口が「心臓破りの坂」と勝手に名前を付けた難所があり、これを上ると段丘のスギ林になって、坂はいくぶん緩やかなになり、最後にカラマツ林の坂があつて、ようやくこの桜にたどり着きます。堆肥や水など重たいものを運ぶ時は、この山道の坂が効いてきます。軽トラは入れないので、この日は3人がかりで小車小運搬しました。



神遊の桜 小車小運搬 2021.10.19

(2) 2021年.11月.8日

高野亮三氏と木戸口和裕の2人で、10月19日運搬済みの資材により、土壌改良、枯損枝落としを実施しました。枯損枝の枝落としには、高枝用鋸を使用しました。土壌改良資材は次のとおり、これらを攪拌混合し、「混合土」を作成しています。

- ①フジミン Forest (フォレスト)、②フジミン 500 倍希釈液含侵稚内珪藻土、③DWファイバー、④松前産竹炭、⑤木質チップ炭、⑥ピートモス、⑦砂川産堆肥、⑧日高産堆肥、⑨雨竜産火山灰、⑩樽前火山灰

このうち、①のフジミン Forest (サンスイ・ナビコ(株)販売)は新製品です。1袋 10kg で、1袋に対して液体であるフジミン 1L をまるごと使用したペレット状の固形化資材です。液体に比べて持続性に優れています。

土壌改良の内容は次のとおり。

- ①アースオーガによる縦穴式土壌改良法で、上記混合土を投入
- ②穴あけ器でエアレーションし、その穴に、固形肥料を投入し、かつ、上記混合土投入
- ③縦穴式土壌改良法を実施した箇所を重点に、フジミン 500 倍希釈液を散布



フジミン Forest (フォレスト) 2021.11.08



神遊の桜 土壌改良資材の攪拌混合 2021.11.08



神遊の桜 アースオーガによる縦穴掘り 2021.11.08
(高野亮三氏撮影)



神遊の桜 エアレーション 2021.11.08
(高野亮三氏撮影)



神遊の桜 フジミン500倍希釈液散布 2021.11.08 (高野亮三氏撮影)

(3) 2021年.11月.9日

樹木医金田正弘氏とご子息の金田紘幸氏、木戸口和裕の3人で、この桜の気根誘導を行いました。発達した低気圧が近づいて、小雨が降る中での作業となりました。雨が強くなれば作業を中止せざるを得ない状況でしたが、何とか終わらせることができました。

この桜には、気根がたくさん出ていたので、内部腐朽が進んでいるこの桜の樹勢回復を図るため、土壌改良だけでなく、気根誘導もすることにしました。

気根誘導の第一人者である樹木医金田正弘氏に主に行っていただきました。使用した資材は次のとおりです。

- ①ピートモス
- ②フジミン Forest
- ③フジミン 500 倍希釈液
- ④稚内珪藻土
- ⑤DWファイバー
- ⑥木質チップ炭



神遊の桜 「泥ダンゴ状」作成 2021.11.09

この気根誘導では植物由来の材料にこだわっています。従来の水の代わりに、フジミン 500 倍希釈液を使用して、「泥ダンゴ」に見える粘性を持たせたものを充填材・張り付け材としていることや、フジミン Forest、DWファイバーの使用も初の試みです。

しかしながら、上記の材料は、樹木の空洞などへの充填材として使用することは可能でしたが、垂直に気根が出ているところへの張り付けは、フジミン 500 倍希釈液とピートモスによる「泥ダンゴ」でなければ張り付けできませんでした。



神遊の桜 「泥ダンゴ状」の充填 2021.11.09

1.5m 程度、垂直になっている気根部分は、細い竹材で土留工代わりに使用しなければならないところが一部あり、資材の準備をして、来春、その部分の気根誘導を行うこととしましたが、大部分を今回終わらせることができました。

ピートモスを主体とする「泥ダンゴ」をつくるには、フジミン 500 倍希釈液用の大量の水が必要で、途中で「心臓破りの坂」がある山道を、ポリタンクを両手に持って、何度も人力運搬しなければなりません。



神遊の桜 垂直部分の気根 2021.11.09



神遊の桜 樹勢回復措置完了 2021.11.09

3 おわりに

2021 年は、春と秋の 2 回の土壌改良、秋の 1 回の気根誘導を行いました。これまでも何度も気根や胴吹きを出して生きてきたこの桜にとって、内部腐朽が進み、最大のピンチを迎えている状態と思っています。2022 年も継続して土壌改良や気根誘導を行う必要があると考えています。

長万部町の多くの子供たちに、開拓の生き証人であるこの桜を、是非、見ていただきたいと思っています。